

## 第6回 探訪、日吉の戦争遺跡

### 第7回 日吉で学ぶアジア太平洋戦争

日吉キャンパスには、巨大地下壕群をはじめ、アジア太平洋戦争末期にこの地が帝国海軍の秘密基地だったことを物語る、数々の遺跡があります。日吉学の歴史パートでは、今年も地下壕を含む日吉の戦争遺跡を見て歩き、皆さんとともにアジア太平洋戦争をめぐっていろいろと考えてみたいと思っています。

まず第6回では、連合艦隊司令部地下壕に入坑し、その後、寄宿舍などの戦争遺跡をめぐります。皆さんには、地下壕の構造や雰囲気、造られた場所の特徴などを、身体で感じてもらいたいと思っています。地下壕で発見された遺物を直接手に取る機会も設けます。そのうえで、戦局が悪化の一途をたどるなか、なぜ海軍が日吉キャンパスにやってきたのか、どうして地下壕のような施設が必要だったのかを考えてみます。

続く第7回では、はじめに、日吉の海軍で働いた経験を持つ方々から当時のことをお話しいただく予定です。また、25年にわたり日吉の戦争遺跡の保存を訴えてきた日吉台地下壕保存の会の活動や、昨年起こった宅地造成によって地下壕が破壊された事件のことも紹介するつもりです。

アジア太平洋戦争の歴史が、日本を取り巻くさまざまな問題と依然深く関わっていることは、昨今のニュースをみてもよくわかるはずです。皆さんには、日吉から見たアジア太平洋戦争の歴史、そして歴史が構築される場に触れたうえで、皆さんたちの世代が、アジア太平洋戦争の歴史とどのように向き合っていくべきか、また戦争の遺跡や体験を保存・継承する意義はどんなところにあるのか、などの問題を考えてもらいたいと思っています。